

農業振興

総務産業常任委員会



新規就農者との意見交換

総務産業常任委員会は、7月14日(火)新規就農者との意見交換と、ワインぶどうの圃場、新幹線の作業用トンネルを視察した。

新規就農者との意見交換には、町内在住2名、町外3名の就農1年目から4年目の5名が参加した。それぞれ、ぶどう、ズッキーニなどの露地野菜、ガラスハウスでトマトなどを栽培しており、

からは当町の優位性として、比較的少雨で雪が少なく、日照条件が良い。また、既存のガラスハウスが有効活用できる点が挙げられた。課題としては、施設の経年劣化による修理費用等を懸念していた。生産物は、直売所等にも出荷されており、今後食の安心安全と地産地消の拡大のため、新たな就農者の参加を期待したい。

町内ワインぶどうの圃場は、11か所あるうちの戌久保の圃場を視察、ワイナリー形成事業から8年、現在5組織の生産者が10品種を栽培、面積は、4・07haまで拡大した。更なるワイン文化推進のため、継続的な支援を求めている。

農業振興を図るため、様々な取り組みをしているが、引き続き委員会としてもより一層の支援を町に働きかけていく。

(中島 新一)

防災施設

社会文教常任委員会



移設された消防ポンプ操法訓練場

社会文教常任委員会は7月30日(木)町内防災関係4施設と企業を訪問し、閉会中調査を行った。

(一)防災倉庫(坂城、村上、南条・中之条地区の各1か所)

(二)消防ポンプ操法訓練場(鼠橋運動公園内)

(三)段ボールベット、間仕切り等を製作する長野

県協同紙工業(株) 備蓄倉庫には人口の1

割1500人分の食糧、水(救援物資が届くまでの2日分)が用意されている。避難所で私が一番

気になるものは「トイレ」である。東日本大震災の時のトイレの惨状は記憶に新しい。

町全体でポータブルトイレは44個。避難者1500人の想定にしては少ない。トイレが心配で避難所へ行くことをためらう人もいるのではないか。

次は消防団ポンプ操法訓練場である。幅26メートル、長さ75メートル。若い消防団員が気持ちよく走る姿が目につく素晴らしい訓練場になっていた。

最後は坂城町と災害時の物資供給協定を結んでいる長野県協同紙工業(株)。独自の技術で様々な段ボール製品を作っている。

瀬戸物が最先端のロケットの素材に使われる時代、古代からの「紙」がどう化けるか楽しみである。

(栗田 隆)